

関東信越国税局長賞

スーパーで見つけた税の役割

長岡市立宮内中学校

三年 間野 葵

夕飯の材料を買いに母とスーパーへ行ったときのことだ。お肉売り場で、母が国産のお肉を手にとった時、私は値段の安い外国産を見て「こっちの方がいいんじゃない」と尋ねた。すると母は「国産は少し高いけれど安心できるからね」と答えた。その一言が心に残り、なぜこんなに値段が違うのか知りたいと思った。

調べてみると、日本の国産品は人件費や土地代、輸送費が高く、さらに安全性や品質を守るために多くのコストがかかっていることが分かった。つまり国産品の価格には「安心への投資」が含まれているのだと気づいた。

一方で、安さを理由に外国産ばかりに頼ると、日本の食料自給率が下がり、供給が不安定になったり価格が高騰したりする恐れがある。さらに生産者の利益が減れば産業が衰退し、地域の経済や文化にも影響が出る。スーパーでの何気ない買い物、実は日本の未来につながっているのだと知り驚いた。

そして価格には「関税」も大きく関わっている。関税とは、外国からの輸入品に国がかかる税金で、安すぎる商品が大量に入ってくるのを防ぎ、国内産業を守る仕組みである。また、関税によって得

られた収入は国の財源となって、社会全体を支えている。

しかし、関税を単純に高くすれば良いわけではない。高すぎれば国際関係が悪化したり、物価がさらに上がったたりする危険がある。実際、近年は米国との間で関税をめぐる問題が取り上げられている。もし米国が日本製品に高い関税をかければ、日本の商品は売れにくくなり、企業や働く人に大きな影響が出るだろう。関税には「国内を守ること」と「国際関係を保つこと」の両方の視点が必要なのだといえる。

こうして考えると、関税は単なる税金ではなく、日本の産業と暮らしを守る大切な盾のようなものと分かった。そして関税だけでなく、消費税や所得税など、あらゆる税は私たちの生活を支えている。学校や道路、病院など、普段は当たり前のようにあるものが、実は税によって守られていることを改めて実感した。

私は今回の学びを通して、買い物をする時に値段だけで判断するのではなく、その背景にある生産者の努力や税の仕組みにも目を向け、その大切さをしっかり理解した上で選択したいと思う。国産品を選ぶことは、農業や畜産業を守ることにつながり、結果として日本の食料自給率を支えることにもつながる。そして将来、社会を担う立場になったときには、税をただ「払わされるもの」として考えるのではなく、「自分たちの暮らしを守るもの」として捉え、社会全体の発展やよりよい生活環境の創造に貢献できるよう、努めたいと思う。

こうして今日も、私は買い物力ゴを前に小さな心理戦を繰り広げるのである。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

誰かの支えが未来をつくる

新潟大学附属長岡中学校

三年 大平 莉花

私の姉は、潰瘍性大腸炎という指定難病をもっている。発症は中学三年生の二月、受験直前のことだった。血便や体重減少が続き、食欲もなくなっていた。志望校には合格したが、検査の日、姉は怖がって家から出ようとせず母が無理やり病院へ連れて行った。

最初は「受験のストレスでお腹の調子が悪いだけだろう」と思っていたが、違った。専門医に回され、一か月後に診断が告げられた。それからは飲み薬に加え、水薬や坐薬の治療が始まった。水薬の注入には一時間近くかかり、苦しさのあまり泣き叫ぶ姿や夜中にお腹を押さえてトイレへ駆け込む姿を今も忘れられない。家の空気はいつも張りつめ、笑い声が消えてしまった。

いつも明るく、食べるのが大好きだった姉が「お腹が痛くなるから食べたくない」と反抗するようになり、お粥ばかりの寂しい日々が続いた。家族は姉に合わせて食事を変え、毎日気を使いがら過ごした。焼き肉が大好きだった私はずっと我慢していたが、姉が勉強合宿で留守のとき、家族で焼き肉を食べた。けれど「お姉ちゃんはどう食べられないのかな。」と思うと胸が痛んだ。

診断から一年後、「特定疾患受給者証」が届いた。それを使い

ば医療費に上限があると知り、母は深く安堵していた。そしてその時母から「この制度は税金で支えられているんだよ」と教えられた。私は初めて、税金が生活を支えてくれることを知った。自分の医療費も、公費負担で五百三十円で受診できていることを思い出した。私の暮らしも見えない誰かの優しさに守られている、そう感じた。

それまで私は、税金は払うだけで「みんなの生活を苦しめるもの」だと思っていた。しかし、姉の病気をきっかけに考えが変わった。母に制度の仕組みを聞き、改めて調べてみると、二〇五〇年には一人の高齢者を約一・三人で支えていかなければならない社会が来ることを知った。少子高齢化で支える側の負担は増える。けれど、このことを知って、ただ不安に思うのではなく、自分がしっかり納税をして、支援が必要な人の生活や医療に役立つと思うようになった。

あの頃の姉は、高校の学食や大学の寮でも配慮を受け、多くの人に支えられながら日常生活を送っていた。体調を気にしながらの食事、遊びなどが制限されながらも治療を続け、少しずつ体調と笑顔を取り戻した。今は症状も落ち着き、友達と笑い合いながら大学生活を楽しみ、就職活動にも励んでいる。高額な薬もこの制度のおかげで安心して使えている。

私たちの生活は、見えないところで誰かに支えられている。あの時の姉の涙も、痛みも、きっと誰かの優しさに守られていたのだと思う。だから今度は、見えないところで誰かをそっと支える存在になりたい。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

日本の今と、未来のために

長岡市立大島中学校

三年 本間 健太

私は中学二年生の時に、体育の走り高跳びの授業で鼻の骨を折る大怪我をした。その時救急車ですぐに病院に搬送され、治療を受けた。病院に着いてからはMRI検査をして、鼻の骨を元の位置に戻す整復術という治療をしてもらった。幸い、今では鼻は元の形に戻り、不自由なく生活することができている。そんな生活ができてるのは、先生方、救急隊員の方、お医者さんの尽力と、医療のために使われる税金があったからだろう。

日本では救急車を無料で呼ぶことができる。これは世界的にみても珍しい。本来は一回利用すると四万五千円ほどするところが、全て税金によってまかなわれている。この制度によって、医療を本当に必要としている人が、抵抗なく救急車を呼ぶことができる。私にとっても、救急車で少しでも早く病院に着くことができたのはありがたかった。私が病院でもらったMRI検査や治療はどちらも高額だが、これらの医療費にも税金が使われている。それにより、窓口で支払う代金が軽減されるため、誰もが安心して治療を受けることができる。

また、私の住む新潟県長岡市には、市独自の制度として、「子ども医療助成制度」がある。これにより、高校生までは一回の通院にかかる費用は一律五百三十円で済み、薬は無料で処方してもらうことができる。子育て支援の一環として、医療費の助成だけでなく、子どもたちが安心して遊べる場所や親同士の交流の場として、様々な子育て支援施設も充実している。これらの施設は、市が税金によってつくってくれているのだ。この制度によって、子どもが医療を受けやすく、親が子育てをしやすい社会がつけられており、未来を担う子どもたちの健やかな成長をサポートしてもらっているなど感じる。

小さい頃の私にとって当たり前だった施設が、税金によってつくられていた。そのことを知って私は、税金は私たちの暮らしと密接な部分にも多く使われているのだと思った。私たちが納めている税金は私たちのために使われている。そのことを知ると、税に対するイメージが変わるだろう。一人ひとりが税に対しての正しい知識を身に付け、社会全体で困っている人を救済していく、そんな日本になってほしい。

私が今納めているのは、消費税のみだが、大人になるにつれ、様々な税を納める必要が出てくるだろう。しかしそれは悪いことではない。日本のどこかで助けを必要としている誰かのために使われ、その人の救いとなるのなら、大きな意味をもつだろう。私は納税する。日本の今と、未来のために。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

「安心」の値段

長岡市立東北中学校

三年 五十嵐 結

今までに経験したことのない振動だった。地面が波のように揺れて、何が起こったか全く分からなかった。二〇二四年元旦。何気ない日常を過ごしていた私達のもとに突如、降りかかってきた。能登半島地震。テレビを付けると地獄のような光景。生まれて初めて「命の危険」を感じた瞬間だった。被災地の方々のことを考えると胸が痛む。そんな私達の希望の光となったのは、自衛隊の方々だった。

小学生の時に、自衛隊について学ぶ機会があった。しかしその時は、「自衛隊の人ってすごいなあ。筋肉モリモリだあ。」なんて思っただけで、あまり真面目に学んだ記憶は残っていない。そんな私が自衛隊に興味を持ち調べ始めたのは、能登半島地震と私の友達が存在がきっかけだ。

地震の体験はしばらくの間、私の頭にこびりついて仕方がなかった。一人で留守番などもつてのほか、寝る時も頭の上に何か落ちてこないか心配で、とにかく一人になるのが怖かった。そんな時に目についたのは、画面越しの自衛隊員の方だった。支援物資をリユクサックに入れて運んでいる。徒歩で住民のいるところに向かう。地面はドロドロ、ねばついた泥がひざまである中を一步一步

進んでいくその姿。とても大変だろうに、住民の方に会った時は、声かけを忘れない。

「こんにちは、必要な物持ってきたので、渡しますね。」

「ありがとうございます。」

自衛隊の方々は、直接被害にあった方だけでなく、日本中、世界中の人々を明るく照らしてくれているのだ。

私の友達に、将来自衛隊になりたいと言っている子がいる。自衛隊のことについて聞いてみた。

「自衛隊のお給料は、税金から支払われているんだよ。私達が物を買うたびに、自衛隊の方々を応援していると思うと、やっぱり税金って大事だって思うよね。」

その言葉に私は驚いた。今まで私は税金を払うことをマイナスなイメージで考えていたし、周りも同じ考えの人が多かったからだ。でも私は知っている。自衛隊の方々が私達を助けてくれるのは、私達が税金を払っているから。能登半島地震を経て、私は税金のありがたさを身をもって実感した。

税金は払ったらすぐに目に見える「対価」がもらえるわけではない。だからこそ、私達は税金がなんの役に立っているか見落としがちである。しかし、税金はお店では売っていないものを私達に届けてくれる。それは「安心」だ。お金で買えない私達の「安心」は自衛隊など様々な人たちの努力の上に成り立っている。国民一人の納税額は少ないが、それは集まると大きな「安心」になる。私はこれからも、税金で届いた「安心」を噛み締めながら、見知らぬ誰かに「安心」を届けていきたいと思う。

長岡税務署長賞

私たちにかけられた、一千万円の期待

長岡市立越路中学校

三年 杉本 寛

夏休みに入る少し前、社会科の先生で、私の担任である先生が言った。「この義務教育九年間にいくら使われていると思う？」周囲で様々な予想が飛び交った。三百万、五百万などまるで競りのような状況になった。私は、多くても六百万くらいだろうと思っていたが、先生はこう言った。「あなたたち一人ひとりにつき、一千万円の税金が使われている。」とても衝撃的だった。小学校では一年につき九十八万、中学校では百十二万円も使われているそうだ。それにも驚いて、つい周りを見渡してしまったが、教科書、机、椅子、黒板、ロッカーなど、目に映るものの値段をすべて考えてみたが、どれだけ多く見積もっても百万円に届くとは全く想像できなかった。

その日からしばらく、頭の片隅にずっとそのことがあったため、インターネットで調べてみることにした。あのときは思い浮かばなかったが、教室にあるもの以外にも、体育用品、理科の実験道具、水道光熱費、教師の給料、部活の運営費用、設備のメンテナンスなど、お金がかかるものがたくさんあり、それらのほぼ全てが税

金でまかなわれていることが分かった。特に水道光熱費は、一般家庭とは全く比べ物にならない金額だそうだ。

調べてみて、実際に一千万円が私に使われていることはよく分かった。ただ、こんなにたくさんのお金を費やして、私たちが学習するために必要なものを与えてくれるのはどうしてだろう。新たな問いが出てきた。

自分なりに数日間考えた結果、ある結論に至った。それは、私たちに期待しているからだ。義務教育を終えて、いつか自分でお金を稼げるようになった時に、一千万円よりもっと多くの税金を納められる人間になってくれる、そして社会に一千万円よりもっと価値のある貢献をしてくれる、そう信じてくれているのだ。国、収入を削って納税してくれる大人たち、そして私の親は私に投資している。「一千万円の期待」を私にかけているのだ。

そして、期待されている私には、何ができるだろうか。まず思いつくのは授業を真剣に受けることだ。大人たちは、生きていく上で絶対に必要なお金を私たちに分け与えているのだ。受け取る側として真剣な態度でいなくてはならない。次にできるのが、未来を考えることだ。行きたい高校、やりたい仕事、将来なりたい人物像。何も決まっていなくても、決まらなくても、考えることが大事なのだと思う。それは税金を教育として受け取る私の責任で、税金を納めてくれた人への感謝でもあるのかもしれない。

だから私は、「一千万円の期待」を背負って学校へ行くのだ。いつかそれを「税金」という形で恩返しできる人間になるために。

長岡税務署長賞

除雪の向こうにあったこと

長岡市立東中学校

三年 野口 隼

「大雪になりそうだ。」私は天気予報を見て、呟いた。二〇二五年一月、長岡市には寒波が襲っていた。近年、地球温暖化の影響で短時間で集中的に雪が降る「ドカ雪」の頻度が上がっている。私は自宅から学校まで歩く際に、消雪パイプという融雪装置がない歩道を歩く箇所があり、「ドカ雪」になると「消雪パイプのない歩道は雪が積もって、歩きにくく、雪をかき分けて登校しなければいけない」と覚悟する。いざ、家を出て、消雪パイプのない歩道へ向かうと、毎回、人が二人通れるほどの幅で除雪されている。もちろん、家の前の入口は、住んでいる人が除雪することもあるのだろうけど、入口がないところもしっかりと除雪されている。その日は大雪ではあったものの、学校まで雪をかき分けることなく登校することができた。

二月、また寒波が襲ってきた。この日は早めに家を出た。あの歩道に着くと、目の前では除雪作業が行われていた。作業員の人たちが、「長岡市」の文字が入った除雪機を動かして、一生懸命歩道を除雪してくれている。私はこの瞬間に気がついた。「いつも通りやすいのは除雪をしてくれる人がいるからだ」ということに。私

は「ありがとうございます」と声をかけ、学校へ向かった。

それとともに、一つ疑問が湧いた。歩道に限らず、長岡市では道路除雪がしっかりと行われており、豪雪でも道路交通が完全にマヒしてしまうことは減多にない。では一体、どれほど除雪にお金がかかっているのか。

インターネットで調べてみると、令和六年度の長岡市の当初予算の除雪業務委託料などの道路除雪費に二五億七五九六万円が割り当てられていることがわかった。これは、県道や国道の除雪費は含まれていないので、県道や国道を含めた市内すべての道路の除雪費用はさらにかかっている。

でも二五億円以上もの莫大なお金はどうやって賄われるのか。疑問に思っていたとき、学校で租税教室が行われ、除雪の話が出てきた。除雪には「税金」が使われている。それがわかった途端、心の中のもやもやがすっと晴れ、税金が私たちの生活にどれほど役立っているのかがわかった。

今までは、税金は何に使われ、どのように私たちの生活を支えてくれているのか、あまり実感がなかった。だが、「ドカ雪」でも通行できる歩道は、除雪をしてくれる人がいて、莫大なお金がかかっていて、それを税金が賄っていると学んだことをきっかけに、税金は、私たちの生活をいろいろな場面で支えてくれる大切なものであることがわかった。今、私は、税金で日々の生活を「支えられる」立場である。だが、将来は誰かの生活を「支える」立場になる。そのときは、税金をしっかりと納め、支えられるようにしたい。そのために、私はさらに税金について学んでいきたい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 最優秀

税金と私たちの選挙

長岡市立三島中学校

三年 塚野 茜

税金は私たちの生活を支える土台である。中学校で配られる教科書や登校するための道路、病院やゴミの処理など、日常生活に欠かせないものには必ずと言っていいほど税金が使われている。毎日の暮らしの中で私たちは気づかないうちに、税金の恩恵をうけているのだ。

では、その税金の使い道を決めるのは誰なのだろうか。それは、選挙で選ばれた代表である。国税は国会議員、地方税は各都道府県や市区町村の代表が話し合い、どこにどれだけ税金を配分するかを決めている。つまり、税金と選挙は切り離せない関係にあるのだ。

さらに私は、選挙そのものが税金によって運営されていることを知った。投票所を作る費用、候補者ポスター掲示板の作成や人件費など、衆議院選挙では六〇〇億円以上、参議院選挙では五〇〇億以上のお金がかかっている。また、それらのほとんどが国民が納めた税金でまかなわれている。つまり、税金があるから選挙ができ、その選挙で選ばれた人が再び税金の使い道を決めるという循環が成り立っているのだ。

私は二〇二五年の七月に行われた参議院選挙のニュースを見て、この関係をより強く意識するようになった。

今回の選挙の投票率は約五十八パーセントと前回の参議院選挙よりも高く、十五年ぶりに五十パーセント後半になったと報じられていた。全体としては、税金の使い道について注目の高まった選挙だったのだ。その中で、若い層の投票率が伸び悩んでいるという。自分たちが納めている税金の使い道を人任せにしている人が多いということかもしれない。

また、選挙に行かないということは、自分が納めた税金で作られた仕組みを使わずに捨ててしまうようなこと。自ら国を良くする機会を逃すということは非常にもったいないことだ。だからこそ、もっと選挙に関心をもち、選挙に行くことが大切だと考える。私が将来投票できるようになったときは、選挙に行くことはもちろん、税金をどう活かしてほしいかを考えて一票を入れたと思う。

税と選挙は国民の権利と義務を結びつける大切な仕組みである。税金を納めることで選挙が成り立ち、選挙で選ばれた代表が税金の使い道を決める。この関係を理解し、自分がその権利を持った一員であるという自覚をもつことが、これからの社会をより良くしていくために必要なことだと考える。

私にできることは、選挙に行くというほんの小さなことかもしれないが、その一票の重みを感じながら、社会に関わっていきたい。皆さんも、税と選挙に関心をもち、今の自分にできることを考え続けてほしい。この、税に支えられている社会の中で。

新潟県長岡地域振興局長賞

あたりまえを支える税金

長岡市立秋葉中学校

三年 多田 安美香

「あたりまえ」という言葉からみなさんは何が思い浮かびますか？私は日頃の生活が一番に思い浮かびます。毎日のように通っている学校や病気になったときに行く病院など日頃の「あたりまえ」はあたりまえのようであたりまえではないと思いました。

きっかけは、社会の授業で税金の役割について学んだことです。授業では、税金は国や地域を動かすために必要なものでみんなが少しずつ負担することで社会全体を支えていることを学びました。例えば、公園や町の図書館、消防署、警察署は税金で成り立っています。私の住んでいる地域には新しく交流拠点施設ができ、さまざまな設備が整っていますがそれも税金が使われていることに改めて気づきました。

私は中学生海外体験フォートワース訪問事業でアメリカに訪れる機会があり、たくさんのことを学ばせて頂きましたが特に印象に残っているものがあります。それは、アメリカでは救急車を呼ぶと数万円の費用がかかるということです。日本では急病や怪

我をしたとき、すぐに救急車を呼べてお金もかかりません。でも、それが「世界ではあたりまえではない」と知ってとても驚きました。そこで救急車を税金で運営することのメリットとデメリットを調べて考えてみました。大きなメリットは誰でもすぐに助けを呼ぶことができ命を救えることです。また、お金がかからないこともありがたいことだと思います。一方でデメリットは、無料だからこそ「本当に必要か」を考えずに呼んでしまう人がいて、本当に必要な人のところに救急車が行くのが遅れてしまうことがあるそうです。救急車は私達一人ひとりが正しく使う意識を持つことが大切だと思います。

ニュースで地震や台風などの自然災害で被害が出た地域に救助や支援物資が送られているのを見たときも、税金の力はすごいなと思いました。災害が起きたとき、すぐに助けが届くのは普段から税金で準備や訓練がされているからだと思いました。

今まで、「税金は大人が払うもの」というイメージがありました。でも、私達中学生の生活も税金によって支えられていることがわかりました。将来、私達が大人になったら税金を納める立場になります。働いたお金の一部を税金として納めることで「あたりまえ」を支えることにつながるのだと思います。これから、「あたりまえ」に感謝し、今の生活がたくさんの支えて成り立っていることも忘れずに過ごしていきたいです。

長岡市長賞

より暮らしやすい社会をつくるために

長岡市立青葉台中学校

三年 加納 莉子

私たちは生活の中で、様々な税を払っています。私は、その「税」がどのようにして使われているのか、なぜ必要なのかという二つの疑問をもちました。

「税」と言うと、私は「消費税」や「所得税」、「固定資産税」などの税しか知りませんでした。ですが、このような身近なものだけではなく、身の回りにはもっとたくさんの税があることを知りました。例えば、「贈与税」は、財産を贈与されたときにかかる税金です。この税は、税務署へ自己申告しなければいけない義務があります。また、「たばこ税・酒税」は、たばこや酒類に課される個別消費税です。消費税という税にも、色々な種類の消費税があることに、驚きました。

このような色々な形で納められた税金も、また色々な形で使われています。主に、人々の健康や生活を守る社会保障費や、国債の返済や利子の国債費、地方を支援する地方交付金などに使われています。

もし税金がなくなってしまうと、道や橋の整備ができなくなったり、警察官がいなくなってしまうたり、誰もが安心して学べる環

境がなくなってしまうです。

このようなことから、税金は私たちの暮らしを支える大きな力になっていることが分かります。私たちは、自分たちの手によって、暮らしや健康を守り、明るい社会を築き上げているのです。

ですが、課題だと思ふ点もあります。

税金の使い道の内訳を見てみると、「道路や住宅などを整備する公共事業費」に充てられている税の割合が、他の使い道に比べて少ないことがわかります。

実際の事例を挙げると、今年の一月に埼玉県八潮市で、下水道管の破損による道路陥没という悲惨な事故が起きました。この事故だけではなく、私たちの身近でもそのような事故は多く起きています。

税金は、私たちの暮らしを豊かにするために、新たなものやシステムをつくることにも必要だと思っています。ですが、「新たなものを生み出す」ということよりも、「壊れてしまったものを修繕し、今あるものを大切にしていく」ということを優先した方が社会のためになる、より明るい社会をつくることができるのではないかと、私は思います。

そして何よりも、維持管理をしっかりしながら、より豊かな暮らしをつくっていくためには、一人一人が税を納めることが大切です。滞納せずに、納めるべき税をきちんと納めることで、みなさんが安心して過ごせる明るい社会をつくっていくことができるのではないのでしょうか。

出雲崎町長賞

「安心と安全のために」

出雲崎町立出雲崎中学校

三年 寺尾 賢志郎

私の家には防災無線があります。防災無線と言っても朝や夕方の決まった時間に音楽が流れて、町の行事のお知らせなどが放送され、私自身あまり防災の為の放送機器という認識はありませんでした。加えて週末もいつも通り朝七時には音楽が流れてきてゆっくりと寝たい時は迷惑とも思っていました。

しかし、二〇二四年一月一日にはそんな考えは全て間違いだったと気づきました。その日はお正月で家族の皆と一緒にテレビを見ながらゆっくりしていました。午後四時過ぎに急に家が大きく揺れだし、父に言われてすぐに外に避難しました。しばらくすると揺れも収まり、大きな地震だったねと皆で話しながら家の中に戻りました。その時テレビは緊急放送に切り替わっており、初めて能登半島が震源地で出雲崎町にも津波警報が出ていました。東日本大震災での津波の恐ろしさはニュースなどで知ってはいましたがこの時点ではどのような行動をとるべきか分からず、父や母も実際に避難すべきか判断に迷っているようでした。その時に防災無線から「津波警報が出ています。海岸の近くの方は高台へ避難してください」と放送が入りました。私たちはその放

送を聞いて、すぐに準備してハザードマップにある木折神社に避難しました。私たちが到着したときは既に日も沈み海の様子は全く分からず不安は大きくなっていましたが、先に避難されている高齢の方からも「防災無線を聞いていれば大丈夫だよ」と言われ用意されていたお茶やお菓子を頂きながら出雲崎町の昔の話を聞いていました。その時、防災無線から「津波の心配はなくなりました」と放送が入りました。避難所にいる全員が「わー」という声と同時に自然と拍手が沸き上がりました。しばらくして私たちも家に戻り、いつものように寝ようとした時にふと疑問が生まれてきました。防災無線のお金は誰が払っているのだろうか。でもあの放送でどれだけ安心できたか、あの時の避難所での拍手を思い出すと余計に不思議で仕方ありませんでした。翌朝一番で父に「防災無線ってお金払っているの？」と聞くと一切お金はかかっておらず、役場がすべて負担してくれていることを知りました。そしてそれは皆の税金で私たちに安全と安心を守ってくれていると教えてくれました。今まで税金について考えた事もなく、しかも逆に朝からうるさいと思っていた防災無線が住民の皆の税金で成り立っており、今回の地震ではその放送がどれだけ心強かったかと思うと少し恥ずかしく思いました。考えてみたら、信号も安全に走れる道路も当たり前だと思っていましたがこれも全て税金で成り立っていると改めて認識できました。私は中学生で税金を納めていませんが税金に守られていると思います。私も大人になって税金を支払う時は皆の安全や安心、そして幸せになれるように願いたいと思います。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

恵まれた日本

長岡市立山本中学校

三年 長谷川 莉杏

蛇口をひねれば水が出る。きっと皆さんの家庭もそうでしょう。お風呂や手洗い場、トイレで必ず水を使ってしまうところがある。私たちの家族は五人家族だ。一人あたり、たくさんの水を使う場面が多々ある。一人、一日水を使う量は、二〇〇から三〇〇Lだという。そうすると、私達の家庭は、一〇〇〇から一五〇〇Lを使っていることになる。では世界中で水を人々は皆当たり前のように安全な水を使えているのか。

私は気になり世界中の水のことについて、調べてみた。安全な水道水を飲める国が、日本、フィンランド、オーストリア、ニュージーランドなど、全部で九カ国しかないというのだ。世界はこんなに広いのに、たった九カ国しかないのかと、とても驚いた。そして皆さんが気になってるであろう安全に水が飲めない人々の数は、二十二億人もいるのだ。特にアフリカ地方では、やむを得ず不衛生で汚れた水を使ってしまう、二〇一七年の調査によると、年間で約三十万人、毎日八百人以上の乳幼児が、汚れた水を原因とする下痢症で命を落としているそうだ。さらに、その水を飲むために、

家から水汲み場まで、平均して一日に八時間以上を水汲みを必要とする子どもも存在しているそうだ。そう考えると私達は、今、水道水をたくさん安全に飲めていることはとても幸せであることだと感じた。それは、ほぼ税金で成り立っているということだ。

以前まで、私は、水に税金が使われていると知らず、そもそも税金がどのように使われているのかも知らなかった。そんな私は税金は、あつたほうがいいのかと疑問に思っていた。だが、以前に社会の授業で見た、税金の動画で知ることになった。その動画は、税金がなくなると、どうなるのかというテーマだった。それを見ると、道路は、ボロボロ、救急車はお金がかかる、学費が高く、学校に通えない子が増えるなど、大変なことになっていた。やはり、税金がないと、水の他にもたくさん困ることがあるんだと考えさせられ、私達の生活にとって、とても欠かせないものなんだと思った。今では、「税金があるおかげで」と考えれば、今の私達がいると考えられるようになった。

私は、日本はとても優れていると感じた。税金の制度が整っている、私達を使う公共施設も皆が平等に誰にでも使える。そして、当然のように安全な水が飲めている。私は以前まで、税金のありがたみを感じてはいなかった。だから、私が今しないといけないことは、税金で賄われている学校で、毎日使う教科書や椅子や机など、他にも税金は使われているが、特に、身の回りの税金にたくさん感謝をしながら暮らしていくことがすごく大切だと感じた。

公益社団法人長岡法人会会長賞

みんなで支える社会と税

長岡市立岡南中学校

三年 須田 梨愛

私たちの生活の中には、税が関わっていることがたくさんあります。けれど、普段はあまり意識することがありません。ニュースで「税金」という言葉を聞くと、大人が払うものだと思ってしまいがちです。私は中学生なので、まだ税を納める立場ではありませんが、授業で学んだことや調べたことから、税は私たちの暮らしを守る大切な仕組みだと感じました。

まず、税は学校に深く関わっています。校舎の建設や修理、教科書や机など、学ぶために必要なものには税金が使われています。私たちが安心して勉強できるのは、多くの人が納めた税のおかげです。毎日使っているものの背景に税があると考えると、当たり前前に思っていた環境がありがたいものだと気づきます。また、税は医療や福祉にも使われています。病気やけがをした人が安心して病院にかかれるのは税で支えられている制度があるからです。高齢の人や小さな子どもたちが安心して暮らせるように、社会全体で助け合う仕組みになっているのです。私はこのことを知って、税は「自分のため」だけでなく、「みんなのため」にあるのだと感じました。

さらに、災害のときにも税は大切な役割を果たします。日本は地震や台風などの災害が多い国です。被害が出たときにすぐに支援や復旧が行われるのも、税金があるからです。税は「もしものときの安心」につながっているのだと思います。

このように、税は社会のさまざまなところで使われています。私たちが毎日安全に暮らせるのは、みんなで少しずつ負担を分け合っているからです。私は税を「社会全体で出し合う会費」のようなものだと考えてようになりました。

しかし一方で、税は限りあるお金です。だからこそ、無駄に使われてはいけません。ニュースなどで、税の使い道についての議論を見たことがあります。私は、税は一人ひとりが納める大切なお金だからこそ、しっかりと必要なところに使われるべきだと思います。中学生の私にできることは限られていますが、社会の仕組みに関心を持ち、正しい使い方がされているか考えることは大切だと思います。

これから私は大人になり、やがて税を納める立場になります。そのときは「自分のお金が社会の役に立っている」と考えながら納めたいと思います。そして、未来の子どもたちや地域の人々が安心して暮らせる社会をつくる一員になりたいです。

税は、ただお金を集めるものではなく、みんなで支え合い、未来を守るための大切な仕組みです。目に見えにくい存在ですが、自分の未来にもつながっていて、確かに私たちの生活を支えていることが分かりました。私はこれからも税の役割について学び、社会の一員として責任を果たしていきたいです。

関東信越税理士会長岡支部長賞

私たちが生きる未来を想って

長岡市立小国中学校

三年 湯本 羽那

税金。社会を支えるために国民が納める金銭のこと。調べてみるとそんなことが書いてあった。税金の話はあまり良い印象をもたない。ニュースを見れば増税だ、かと思えば減税だ、とよく話題になっているのを見るからだ。確かに私たちができないようなことを国が行うために税金が必要になるということは知っている。だが、どうしても直接的な実感が湧いてこず、他人事のように感じてしまうのだ。しかも私たち中学生に関係のある税は主に消費税であり、普段の生活で欲しいものを買うときに差し引かれるというような「負担」のほうが大きいのと思っていた。

そんな私の気持ちが変わるきっかけとなったのは、社会の授業の一環として行われた租税教室だ。税理士の方から税金はなぜ必要なのか、どんなことに税金は使われているのかなどの話を聞いた。その中で印象に残った話がある。令和七年度の一般会計予算を使つての現在の日本の財政についての話だ。歳出が約百十六兆円なのに対し、税金などによる歳入は約八十七兆円と歳出よりも少なく、その代わりに約二十九兆円の国債が発行されたということ。そしてそれが積み重なり、国債残高が年々増加してい

ること。このままだと将来の世代に大きな「負担」がかかること。主にそんな内容だった。私は驚いた。今まで自分から知ろうとせず、ただ「負担」だと感じて、どこか他人事のように思っていた税金が自分事として迫ってきた。

それから私は、日本の財政の課題を解決するにはどうしたらいいのか、私たちにできることはないのか考えた。まず、根本的な歳出を減らすということだ。どこに税金を使えばいいのか、本当に税金を使うべきところはどこか、よく考える必要がある。歳出を少しでも減らすことができれば、借金量を減らすことができるだろう。だが、ただ歳出を減らすということだけだと、生活に不便が出てきてしまう。そこで増税をして歳入を増やすという選択肢が生まれるのだ。

ところが、どれだけ国のため、私たちの社会を支えるためだと言われても、少なからず負担になると考える人もいるだろう。はじめは私もそうだったし、今でも増税することに賛成な訳ではない。でも租税教室を通して、その納めた分の税金はこれから生きていく未来の私や社会のための「負担」ではなく、「投資」と考えるようになった。そうやって少し捉え方を変えることで、税に対する意識も変えることができると思う。

私たち中学生は納税者としてまだ社会に大きく貢献が出来ていないかもしれない。今は与えてもらっている側だからこそ、税を納めて社会を支えている人に感謝しながら生活したい。そして、自分が与える側になった時には、税金をきちんと納め、人々に貢献していきたい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

税金についての考え

長岡市立南中学校

二年 今井 ひいろ

私たちが日々使うお金の中には、税金が含まれています。税金は、私たちが住んでいる社会を支えるためにも大切なものです。例えば、学校や病院、道路や公園など、私たちが普段利用するものは税金によって成り立っています。もし税金がなければ、こうした公共サービスは提供されなくなり、私たちの生活は非常に不便になるでしょう。

しかし、税金を支払うことに対して不満を持つ人も多いのが現実です。特に、「自分が払った税金がどのように使われているのか分からない」と感じる場合があります。ニュースで税金の無駄遣いや不正が報じられると、税金に対する不信感が強くなることもあるでしょう。それでも、税金は社会全体を支えるために必要不可欠なものだと思います。税金で支えられている公共サービスがなければ、私たちの生活は成り立たないからです。

税金が使われる場所を具体的に考えてみましょう。医療や教育、福祉といったサービスは、私たちの生活に直結しています。もし税金がないと、これらのサービスを自分で全額負担しなければならなくなり、生活が困難になります。特に、高齢化が進んでい

る日本では、今後、医療や福祉にかかる費用が増えていくことが予想されます。そのため、税金の使い道をしっかりと管理し、無駄を省くことが重要です。

また、税金が「公平」に課されることも大切です。累進課税制度という、収入が多い人ほど税金を多く払う仕組みがあるおかげで、貧困層に対する支援が行き渡ります。このように、税金を公平に分け合うことで、社会全体の不平等を減らし、誰もが安心して暮らせる社会が作られます。

私たち中学生ができることは、税金の重要性を理解し、その使い道に関心を持つことです。将来、私たちも税金を納める立場になります。だからこそ、税金がどのように使われているのかを理解し、その管理について考えることは大切です。また、税金の使い道について意見を持つことが、将来の政治に対する責任を果たす一歩だと思っています。

政治家や政府が税金をどのように使っているのかを知ることは、私たちが将来選挙で投票する際にも役立ちます。税金の使い方についての意見を持ち、より良い社会をつくるために自分の意見を伝えることが、民主主義における大切な役割です。

税金は私たちの生活を支えるために必要なものであり、その使い道に関心を持つことがより良い社会を作るために重要だと思っています。税金の意味や重要性を理解し、将来、私たち自身が税金を納める側になった時に、どのように使われるべきかを考えることが大切です。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

長岡を救うためのふるさと納税

長岡市立堤岡中学校

三年 相羽 鈴亜

去年、私の家には福島県福島市のももや北海道留萌市のいくら、山梨県富士吉田市の布団や北海道森町の力二などが届きました。聞くところによると、両親はこれら自治体に税金を納めているとのことでした。意味が分からなかったので税のしくみについて調べることにしました。

税には、国税と地方税があります。国税とは税の最終負担者が直接間接どちらでも、納税義務者を通じて国庫に納める税金のことです。例えば、所得税や法人税、消費税などがあります。一方、地方税は地方における国や市が課税し、国や市に対して納める税金のことです。例えば、自動車税や不動産取得税、固定資産税や地方消費税、入湯税が主にあります。

これらの国税と地方税は、私たちが使い道を選ぶことができます。一方、ふるさと納税は全国の応援したい地域に寄付ができるしくみで、寄付金の使い道を選ぶことができます。さらに、寄付のお礼品として、地域の特産物などがもらえて、税金を安くしても

らえる制度です。

このことから、私の両親が賢く税金を納めていることがわかりました。

しかし、私はもう一つ気になったことがあります。それは、なぜふるさと納税が始まったのかということです。調べてみると、官僚が「故郷の自治体に税金を納めたいがなんとかできないか」と相談したことがきっかけで二〇〇八年に創られたのがふるさと納税だと分かりました。このふるさと納税という制度は地方で生まれ育った人が進学や就職で都市部に移り住み、都市部で納税を行うことで、故郷の自治体への税収が減少するという問題提起から始まったそうです。背景には、人口が都市部に集中し、地方の人口が減り続けている問題が挙げられています。

地方を救うためのふるさと納税。私が住む長岡市では、昨年度のふるさと納税による寄付額が四十二億円を突破したそうです。米や大口れんこん、栃尾の油揚げなどが人気を集めたそうです。が、それだけ長岡を応援してくれている人が多いのだと思います。長岡に住んでいなくても長岡を応援できる制度は素晴らしいと感じました。

税金のことを調べたことにより、税金を払う人も受け取る市や国も工夫をしていることがわかりました。

私も大人になったら、賢く税金を納めていきたいと思っています。